

令和6年度 第3回狛江市基本計画推進委員会 会議録

- 1 日 時 令和6年8月2日（金）午後7時00分～午後8時34分
- 2 場 所 狛江市役所4階 特別会議室
- 3 出席者 委員長 福島 康仁 副委員長 上田 英司
委 員 村上 裕章 委 員 河内 広樹
委 員 佐藤 淳哉 委 員 高橋 良典
事務局 杉田政策室長 中村企画調整担当主査
宇野企画調整担当主任
- 4 欠席者 委 員 佐藤 慶、委 員 名古屋 信夫、委 員 水谷 成江
- 5 議 事 1 評価対象施策A「放課後の活動場所の充実」の評価について
2 評価対象施策B「治水対策の推進」について
3 その他

6 会議概要

1 評価対象施策A「放課後の活動場所の充実」の評価について

—事務局から説明—

【委員長】

事務局の説明に対する御意見等あるか。

【副委員長】

前回の委員会が出た質問について簡潔にまとまっており、回答も明解であるので、私からは特に修正等の意見はない。

【委員長】

総括した成果・課題の5のSDGsの視点だが、学童の取組に対して、「健康的な生活」との記載があるが、表現が分かりにくい。

【委員】

無理やりではあるが、決まった時間に学童に通うといった規則正しい生活ができるという意味で考えれば、「健康的な生活」と捉えられるのではないか。

【事務局】

学童クラブの事業名は放課後児童健全育成事業という名称なので、健全育成という言葉が、健康に近いのではないかと解釈できる。

【委員】

身体的な健康と精神的な健康ということだと思うが、分かりにくいので、表現を補うか、修正していただきたい。

【事務局】

表現を修正する。

【委員】

4年生の待機児童数が多くなっているが、どういう手続きをすると待機児童でなくなるのか説明をお願いしたい。

【事務局】

申請の取り下げがあれば、待機児童ではなくなる。待機児童についても、4年生、5年生ぐらいになると習い事や1人で家で過ごせる年齢となるので、子供も学童に行くより、家に帰って友達と遊び行く方が楽しくなるので、学童の申請自体も高学年は少ない傾向にはなる。

【委員】

4年生については、待機児童数が83人とあるが、学童に行く気はないがとりあえず申請を出している状態なのか、それとも学童に行く気があるのかの真のニーズの把握はできているのか。

【事務局】

この待機児童数は4月1日時点の数字になる。例えば、夏休みを超えともう通わないという方も実際いるとは思う。定員に空きが出て声をかけても通わないという方もいるが、年度途中の状況までは把握していない。

2 評価対象施策B「治水対策の推進」について

—事務局から説明—

【委員長】

事務局の説明に対する御意見等あるか。

【委員】

施策評価シートの「3 指標」と「4 施策に係る取組の事業費」については、対応はの記載があるが、「2 施策に係る取組内容」との関係がわかりにくいので、説明していただきたい。

【事務局】

指標A「雨水浸透設備の整備」は、取組内容1「狛江第三小学校大規模改修三期工事（外構整備等工事）」、指標B「雨水管渠の整備率」は取組内容2「雨水管渠の整備」、指標C「雨水浸透ます設置基数」は取組内容3「雨水浸透ます設置助成」、指標D「浸透柵設置基数」、指標E「道路浸透柵設置基数」、指標F「浸透トレンチ設置延長」、指標G「浸透舗装」、指標H「道路浸透舗装」は、取組内容7「道路新設改良工事」に対応している。

ご質問のとおり施策評価シートの表記がわかりにくいので、対応関係が分かるように修正する。

【委員長】

取組の総括の「3 まちづくりの視点：お互いを認め支え合い、ともに創る(市民参加と市民協働の視点)」で、「要綱規制と助成金を組み合わせ」とあるが、要綱規制とはどういった意味か。

【事務局】

確認の上、表現を修正する。

【委員】

同じ箇所に「降雨は市域全域に等しく降るため」との記載があるが、当たり前のことなので、あえて記載する必要はないのではないか。

【事務局】

表現について修正する。

【委員長】

総括の3番目は全体的に表現の修正をお願いする。

【副委員長】

施策の方向性が治水対策の推進なので、ハード面の方向性となるのは理解するが、まちづくりの視点で、ともに創る視点からすると防災減災の取組については、防災訓練などのソフト面での記載があっても良い気がするが、事務局の見解を伺う。

【事務局】

防災減災に関するソフト面の施策は、まちの姿2の「風水害に対する備えの強化」にて推進する施策であり、令和3年度の本委員会において、すでに提言をいただいている。今回の施策評価については、ハード面の施策にて評価をお願いしたい。

【副委員長】

承知した。

【委員】

ハード面だと整備すればするほど良いことになると思うが、行政側の課題で何があるのか、財源の問題や地域の理解などを明確にした方が良いのではないか。

【事務局】

予算の問題もあり、どこまで整備をすれば良いのかといった課題はある。令和元年の台風で被害が出たので、計画を策定して、令和元年と同じ規模の降雨にも対応できるような整備を進めている。

ハード面の整備だと用地の確保などについても課題となる場合がある。

【委員】

市民参加、市民協働のところでは、要綱での規制や助成などの取組を記載しているが、ハザードマップ等での情報提供などの取組の実施を記載した方が良いのではないか。

【事務局】

確におっしゃる通り、情報を提供することによって、シミュレーションは必要だとは思う。

【副委員長】

雨水浸透ます助成の決算額が令和5年度は17万1000円となっており、毎年300基ほど設置されているが、雨水浸透ますの設置に関しては、ほとんどの方は助成制度を利用していないのか。

【事務局】

雨水浸透ます助成は、個人の住宅に設置をする場合が対象であり、指標の雨水浸透ますの設置基数は、道路開発事業者が設置した数も含まれているため、決算額と設置基数の数值が一致していない。

大規模開発等については、要綱に基づき開発事業者に対する雨水流出抑制施設の設置への働き掛けを行っており、市の予算を使用せずに設置がなされている。

【副委員長】

予算的にはもっと助成をできるが、制度の認知が進んでいないために決算が少額となっているということか。

【事務局】

担当課に確認する。

【委員長】

おそらくではあるが、制度の認知が進んでいないのではないのか。

【委員】

年度によっても決算額に大きな差があるが、理由はあるのか。

【事務局】

傾向についても、担当課へ確認する。

【委員長】

具体的な申請方法についても、担当課へ確認をお願いします。

【事務局】

担当課へ確認する。

【副委員長】

設置基数の必要数の根拠はあるのか。設置をすればするだけ良いという考えなのか。取組として評価するのに根拠が必要ではないかと思う。

【事務局】

雨水浸透ますの全体必要数についても確認する。

【委員長】

目標値の記載がないので、進捗状況が把握できない。目標値がある指標については、目標値の記載をお願いします。

【事務局】

基本計画上で、「雨水管渠の整備率」と「雨水浸透ます設置基数」については、目標値があるので、評価シートに記載する。その他の指標についても目標値があるものについては記載する。

なお、「雨水管渠の整備率」と「雨水浸透ます設置基数」の目標値は、令和6年度末時点で、「雨水管渠の整備率」が80%、「雨水浸透ます設置基数」は12,100基である。「雨水浸透ます設置基数」については、令和5年度の時点で目標を達成している状況である。

【委員長】

「雨水浸透ます設置基数」については、目標値を令和5年度時点で達成しているとのことだが、方向性としては上昇させるとしている。目標達成後も増設をしていく取組であるのか。

【事務局】

担当課としては、今後も増設していくとしている。

【委員】

1件あたり344,000円と高額の助成であるが、率直な意見として費用対効果があるのか疑問である。設置の条件や設置効果の高い地域を選んで助成を行っているものなのか確認をお願いする。

【事務局】

担当課に確認する。

【委員長】

市全体の必要数が把握できればと思う。効果のあるところに設置をしないと意味はないと思うので、全体必要数について、担当課へ確認していただきたい。

【委員】

資料として配布された雨水浸透ます助成パンフレットであるが、雨水浸透ますの設置効果がどれほどあるのかが分かりにくいので、設置効果が分かるように表現を工夫した方が良いと思う。

【委員長】

設置のメリットが伝わると設置してみようという気持ちになるが、メリットがないと設置が進まないのではないかと思う。

設置の効果やメリットが伝わっていない状況で取組を推進しているとしても他人事のような印象を受ける。助成を受けると自己負担無しでも設置できるものなのか。助成率についても確認をお願いする。助成を受けても多額の自己負担があるのであれば、利用が進まないのではないか。

【委員】

利用件数が少ない理由は、助成率の問題もあるのではないか。

【委員長】

雨水浸透ますの設置助成については、制度の周知や認知度について課題があるように感じる。

【委員】

狛江市では、令和元年東日本台風での被害を契機にして、特に内水氾濫について各種の対策を重点的に実施しているのか。

【事務局】

令和元年東日本台風の台風では、狛江市でも実際に被害も出たので、令和5年1月に狛江市下水道浸水被害軽減総合計画を策定し、令和元年東日本台風と同規模の降雨による浸水被害軽減対策については、重点的に取り組んでいる。近年は下水道施設の耐震化などにも少しずつではあるが取り組んではいる。

【委員】

先日も大雨警報が出ていたが、内水氾濫による危険意識はだいぶ市民にも浸透してきてはいると思う。

【事務局】

防災の指標でも、大きな災害があると危機意識が高まるが、時間とともに低下する傾向があるので、防災意識を低下させない取組が必要であり、課題となっている。

【副委員長】

ハード整備だと、市民の見えないところで対策が進み、整備の効果により被害が軽減されていても、市民の実感として効果を得にくいのではないかと思う。

【委員長】

ハード整備の効果が分かるような指標があると良い。

【委員】

ハザードマップを見ると狛江での取組よりも調布や川崎などの上流での影響が大きいように感じる。ポンプ等の設備を設置したら、どれくらいの水量が対策できるのかなどが分かると良いのではないか。

【事務局】

狛江市下水道浸水被害軽減総合計画では、台風第19号時の降雨（時間最大38.5mm/hr）並びに外水位条件において浸水を解消するとしている。

【委員長】

ハザードマップは全戸配布しているのか。

【事務局】

令和3年の作成時点で全戸配布しており、現在は転入者などに市民課の窓口で配布している。

【委員長】

総括で「多摩川の水位が高くなった際に有効となる施策をハード・ソフト面で集中的

に進めてきた。」とあるが、アウトカム指標を用いて説明した方が、取組の成果として、市民の安心につながっているなどの施策評価ができるので、アウトカム指標の記載ができるのであれば、お願いしたい。

また、施策評価なので、組織横断的に実施している取組などもあるのであれば、記載があっても良いのではないか。

【事務局】

担当課に確認の上、記載について表現を修正する。他課との連携は、安心安全課と連携して水防訓練の実施や土のうステーションの設置など、ソフト面の取組については安心安全課を中心に他課と連携して実施しているが、ハードについては、下水管理者が実施するとしている。

【副委員長】

施策の推進結果として、ハザードマップの被害地域が減ったとなれば最大の成果となるのではないか。取組結果等のデータの反映はできないのか。

【事務局】

毎年シミュレーションを行いその結果をハザードマップに反映させるのは困難であるが、一定の整備が終わった段階でシミュレーションを行えば、ハザードマップに取組結果が反映されると思う。

【委員】

総括の中には、「対策を進めていく」との記載しかないので、数値で成果を記載するのは難しいのかもしれないが、ここ数年浸水対策に取り組んできた成果の記載があっても良いのではないか。政策課題について取組を進めることにより解決に向かって進んでいくと記載があっても良い。もちろん、取組の結果として、ハザードマップの被害地域が減っていると見せることができるのであればなお良いと思う。

【委員】

総括の中に目標値を記載して、達成している項目があるのであれば記載すると分かりやすいと思う。

【事務局】

目標値を達成している項目については、記載するようにする。

【委員長】

各取組についても進捗状況が分かると良い。トレンチ延長数が0となっているが、その理由はなにか。

【事務局】

実績が0の年度は当該年度は実施がなかったためである。

【委員】

指標の中で、単年度で実施した数値と類型の数値が混在しているで分かりにくい。総数が分かれば併せて記載しても良いのではないか。

【委員長】

道路浸透舗装などは、総数が分かれば記載をお願いしたい。

3 その他

【事務局】

今回は8月21日（水）に開催する。次回の委員会では、本日、提言いただいた評価対象施策A（放課後の活動場所の充実）に対する提言内容の確認、評価対象施策B（治水対策の推進）の評価、SDGsに対する評価と本委員会にて令和3年度から令和5年度までに施策評価を行い提言いただいた取組について、取組結果等を確認していただく予定としている。

開催通知及び資料は、資料が調製でき次第、委員会の開催1週間前を目途に送付する。質問等があれば、メールにて事務局までお願いする。

【委員長】

その他特に御意見等なければ、令和6年度第3回狛江市基本計画推進委員会を終了とする。